

スポーツ&フィットネス指導者セミナー

地域における健康づくりのための取り組み
～小学生編～

NPO法人みんなのスポーツ協会

池島 栄治郎

自己紹介いたします

イケシマ エイジロウ

池島 栄治郎

NPO法人みんなのスポーツ協会 代表・事務局長

・大阪府済生会中津看護専門学校非常勤講師

・大阪狭山市熟年大学 健康スポーツ科講師

健康運動指導士

JNFA アドバンスインストラクター

福祉レクリエーションワーカー

堺市立浜寺小学校 学校関係者評価委員 他

- ・1962年(昭和37年)12月2日 熊本県玉名市生まれ
- ・福岡県立久留米高等学校卒業
- ・大阪体育大学体育学部体育学科卒業(野外教育・レクリエーション)
スポーツ(フィットネス)クラブ 8年
リゾートクラブ 6年
～スポーツマネジメント会社～NPO法人設立(2003年)

水泳・シャトルラン...体育の実技「負担」 教員採用試験で7割が廃止

2024年6月15日

公立小学校の教員採用試験で体育の実技を廃止する自治体が相次ぎ、文部科学省がまとめた2022年度の状況では実施する自治体が3年前から7割以上減っていた。新任教員の採用倍率が過去最低を更新し続けるなか、実技が受験者の負担となっており、敬遠される原因の一つと自治体がみているためだ。

小学教員採用の3次試験で受験者に水泳の実技を課していた大阪府教育委員会は、今年度から廃止を決めた。大学生らへの採用試験の説明会で「実技は試験を受けるか考えるときのハードルになっている」と参加者から意見が出されたことを踏まえたという。

受験者の対象年齢を「60歳未満」まで引き上げた福島県では、試験がある夏場に「中高年には体力的な負担が大きすぎる」として、20メートルのシャトルランの実技を20年度から中止した。

全国の23年度採用倍率が4年連続で過去最低を更新するなか、自治体は体育の実技が新型コロナウイルスの感染リスクになることに加え、受験者の負担にもなっているとみて、相次ぎ取りやめている。

公立学校の教員採用試験を行う47都道府県と20政令指定市、大阪府豊能地区の22年度の実施方法について文部科学省がまとめた資料によると、小学校で体育実技を実施したのは12。19年度から40減った。

公立中の部活動 地域移行61億円

スポ庁概算要求

スポーツ庁は29日、2025年度予算案の概算要求を公表し、公立中学校の部活動の地域移行に関する事業に約61億円を盛り込んだ。24年度の予算は約27億円だった。

部活動改革は25年度に3年間の「改革推進期間」の最終年度を迎える。受け皿の体制整備や指導者の配置など、各地で行っているモデル事業を今年度の約500超から来年度は約900まで増やし、全国的な取り組みを加速させる。教師に代わって指導や大会引率を担う部活動指導員の配置支援も広げる。

▼部活動の地域移行ワーキンググループが始動 スポーツ庁は29日、公立中学校の部活動の地域移

行に関する課題の整理や、解決策について議論するワーキンググループ（主査・友添秀則環太平洋大教授）の初会合を東京都内で開いた。モデル事業に取り組む自治体の教育長や大学教授ら有識者が、生徒の参加費と公的支援のバランス、モデル事業で出た課題などについて議論をまとめ、公表する予定。

2024/08/30 朝日新聞朝刊

日本におけるの子ども現状

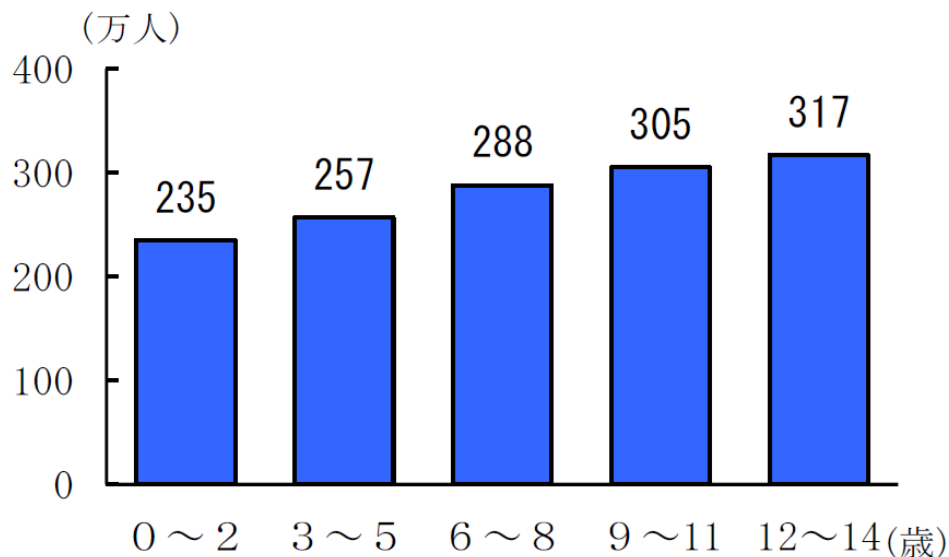
男女別こどもの数

		2024年 4月1日現在	2023年 4月1日現在	対前年 増減数
こどもの 数 (万人)	男女計	1401	1435	-33
	男	718	735	-17
	女	683	700	-16
	人口性比	105.0	105.0	0.0
総人口 (万人)	男女計	12400	12455	-55
	男	6033	6057	-25
	女	6368	6398	-31
	人口性比	94.7	94.7	0.0
総人口に占める こどもの割合(%)		11.3	11.5	-0.2

注) 表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、
合計の数値と内訳の計が一致しない場合があります

日本におけるの子ども達の現状

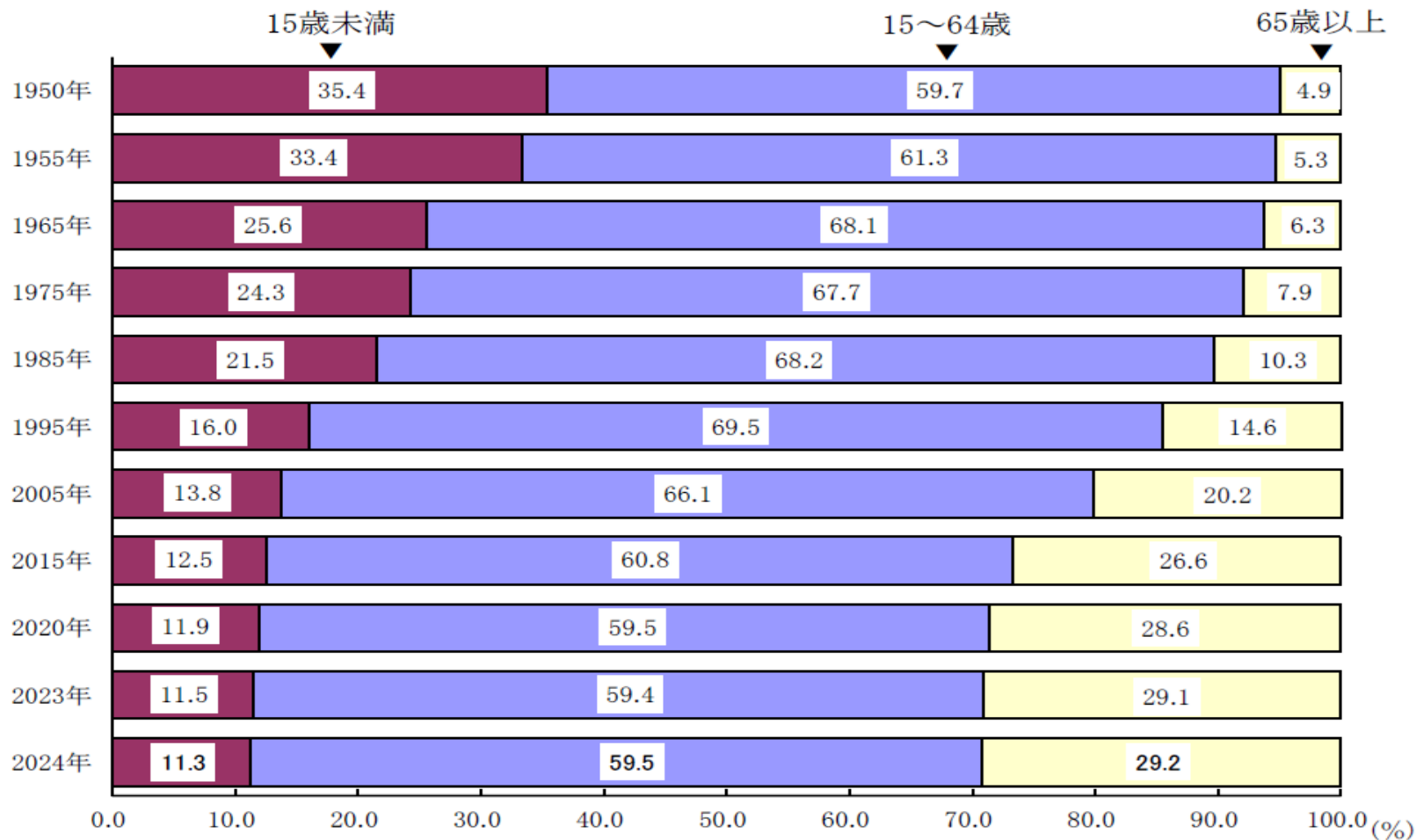
年齢3歳階級別こどもの数
(2024年4月1日現在)



		こどもの数	未就学の乳幼児 (0～5歳)		小学生 (6～11歳)		中学生 (12～14歳)		
			0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳			
人口 (万人)	男女計	1401	491	235	257	593	288	305	317
	男	718	252	120	131	304	148	156	162
	女	683	240	114	125	289	141	149	155
総人口に占める割合 (%)		11.3	4.0	1.9	2.1	4.8	2.3	2.5	2.6

日本における子どもの現状

年齢3区分別人口の割合の推移

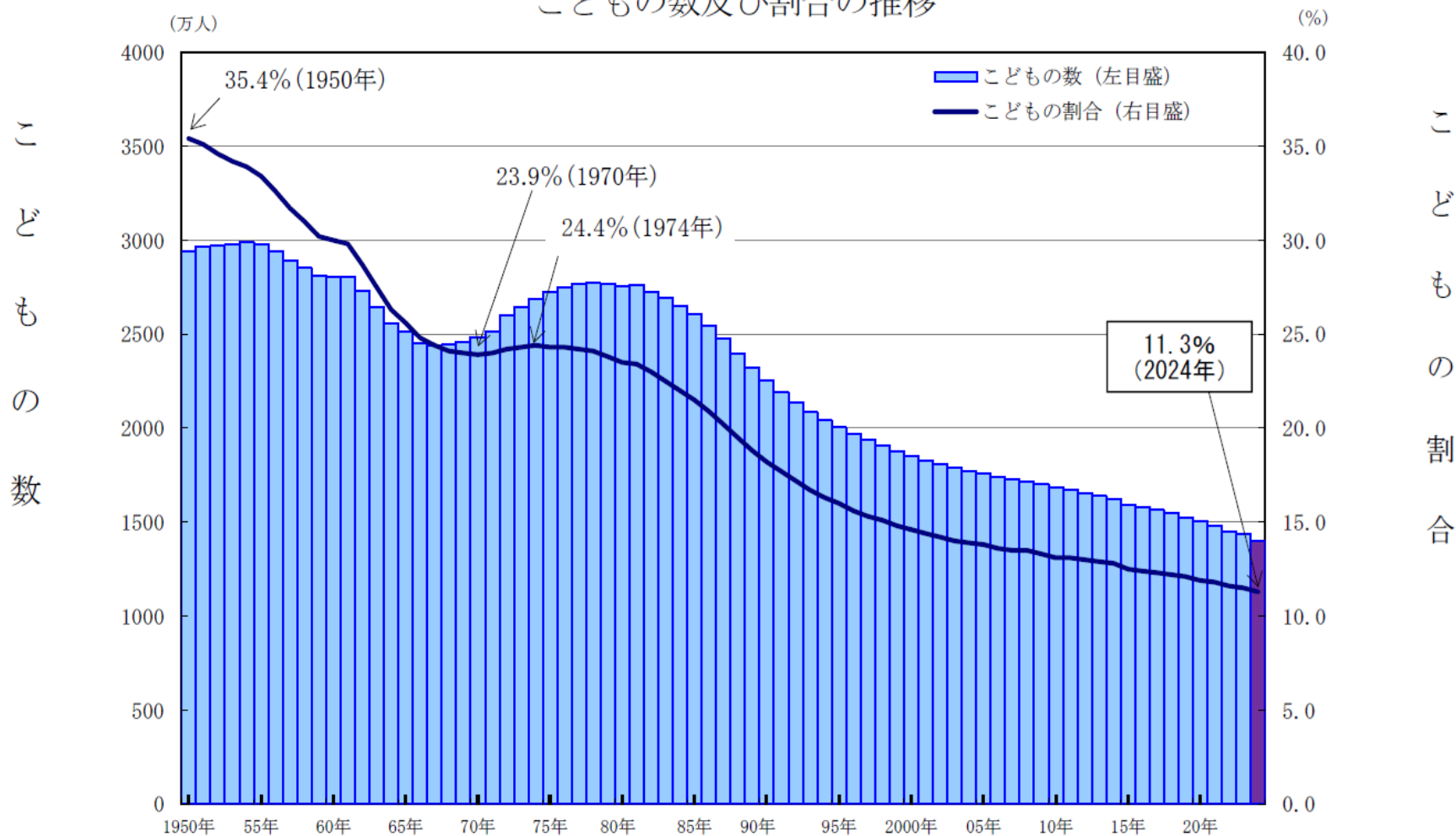


資料： 「国勢調査」及び「人口推計」

注) 2023年及び2024年は4月1日現在、その他は10月1日現在

日本におけるの子ども達の現状

こどもの数及び割合の推移



資料： 「国勢調査」及び「人口推計」

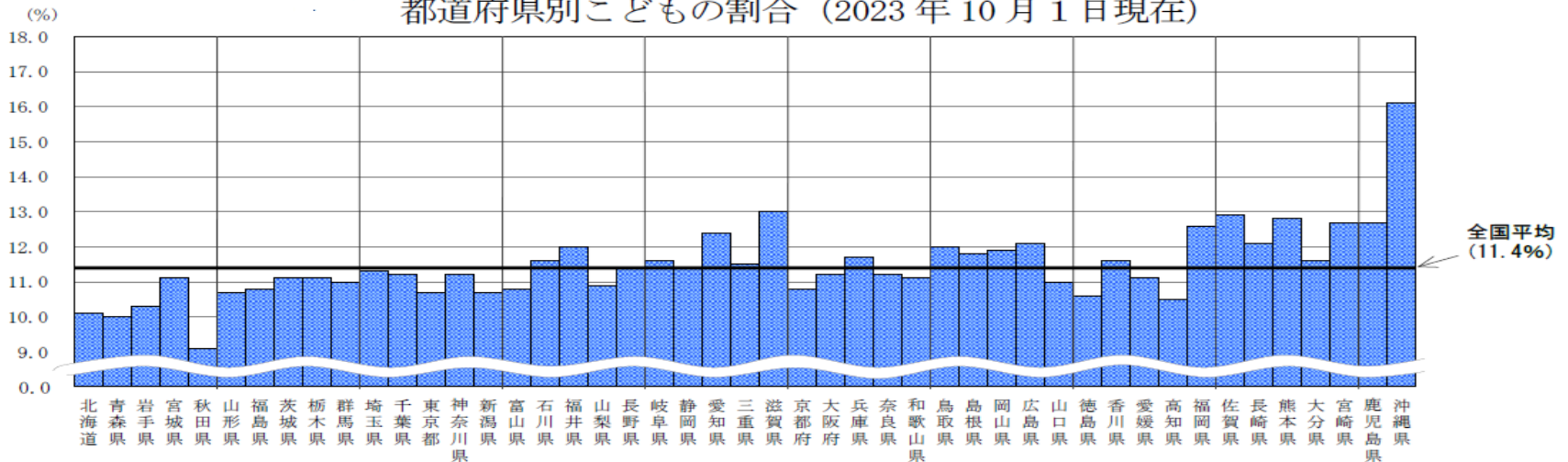
注) 2023年及び2024年は4月1日現在、その他は10月1日現在

都道府県別こどもの数及び割合 (2023年10月1日現在)

都道府県	こどもの数 (千人)	こどもの 割合 (%)	対前年差		都道府県	こどもの数 (千人)	こどもの 割合 (%)	対前年差	
			数 (千人)	割合 (ポイント)				数 (千人)	割合 (ポイント)
全 国	14,173	11.4	-329	-0.2					
北海道	514	10.1	-16	-0.2	滋賀県	182	13.0	-4	-0.2
青森県	118	10.0	-4	-0.2	京都府	275	10.8	-7	-0.3
岩手県	120	10.3	-5	-0.3	大阪府	984	11.2	-18	-0.2
宮城県	250	11.1	-7	-0.2	兵庫県	629	11.7	-14	-0.2
秋田県	83	9.1	-4	-0.2	奈良県	145	11.2	-3	-0.2
山形県	109	10.7	-4	-0.2	和歌山県	99	11.1	-3	-0.1
福島県	190	10.8	-6	-0.2	鳥取県	65	12.0	-2	-0.2
茨城県	312	11.1	-8	-0.2	島根県	77	11.8	-2	-0.2
栃木県	210	11.1	-7	-0.3	岡山県	220	11.9	-5	-0.2
群馬県	210	11.0	-6	-0.3	広島県	331	12.1	-8	-0.2
埼玉県	831	11.3	-16	-0.2	山口県	143	11.0	-4	-0.2
千葉県	703	11.2	-14	-0.2	徳島県	74	10.6	-2	-0.1
東京都	1,513	10.7	-22	-0.2	香川県	107	11.6	-3	-0.2
神奈川県	1,031	11.2	-22	-0.2	愛媛県	143	11.1	-4	-0.2
新潟県	228	10.7	-7	-0.2	高知県	70	10.5	-2	-0.1
富山県	108	10.8	-3	-0.1	福岡県	644	12.6	-10	-0.2
石川県	128	11.6	-3	-0.2	佐賀県	103	12.9	-3	-0.3
福井県	89	12.0	-3	-0.2	長崎県	153	12.1	-4	-0.2
山梨県	87	10.9	-2	-0.2	熊本県	219	12.8	-4	-0.2
長野県	228	11.4	-6	-0.2	大分県	127	11.6	-4	-0.2
岐阜県	224	11.6	-7	-0.3	宮崎県	133	12.7	-3	-0.2
静岡県	404	11.4	-13	-0.3	鹿児島県	197	12.7	-5	-0.2
愛知県	927	12.4	-20	-0.2	沖縄県	236	16.1	-4	-0.2
三重県	198	11.5	-6	-0.2					

注) 割合 : 都道府県別人口に占めるこどもの割合。図4も同じ。
 対前年差 : 2023年のこどもの数(割合) - 2022年のこどもの数(割合)

都道府県別こどもの割合 (2023年10月1日現在)



日本におけるの子ども現状

各国におけるこどもの割合

国名	こどもの割合(%)	国名	こどもの割合(%)	国名	こどもの割合(%)
日本	11.3				
韓国	11.2	コロンビア	21.1	アルジェリア	30.4
イタリア	12.2	ベトナム	22.2	エジプト	32.6
スペイン	13.5	アルゼンチン	22.7	パキスタン	36.1
ドイツ	14.0	トルコ	23.0	ケニア	37.2
ポーランド	14.9	イラン	23.3	イラク	37.3
タイ	15.2	メキシコ	24.0	エチオピア	39.3
中国	16.8	ミャンマー	24.4	スーダン	40.7
フランス	17.0	インドネシア	24.9	ナイジェリア	42.8
イギリス	17.2	インド	24.9	アフガニスタン	42.8
ロシア	17.6	バングラデシュ	25.5	タンザニア	43.1
アメリカ合衆国	17.7	南アフリカ	28.3	ウガンダ	44.4
ブラジル	20.0	フィリピン	30.0	コンゴ民主共和国	46.5

資料：United Nations, "World Population Prospects, The 2022 Revision" による2023年の年央推計値（うち人口が4000万人以上の国）
日本は人口推計（2024年4月1日現在）

子どもの体力の現状

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、現在の子どもの体力・運動能力の結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下まわっている。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っている。

体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえる。

また、最近の子どもは**自分の身体を操作する能力の低下も指摘**されている。

子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失われるという事態に発展する可能性が大。

子どもの体力の現状



身長・基礎的運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	143.2	145.8(↑2.6)	145.5	147.1(↑1.9)
50m走 (秒)	8.8	8.8(0)	9.0	9.2(0.16遅い)
ソフトボール投げ (m)	34.0	25.4(↓8.6)	20.5	16.0(↓4.5)

※親の世代は昭60年度の11歳(さい)、今の子どもたちは令和3年度の11歳(さい)

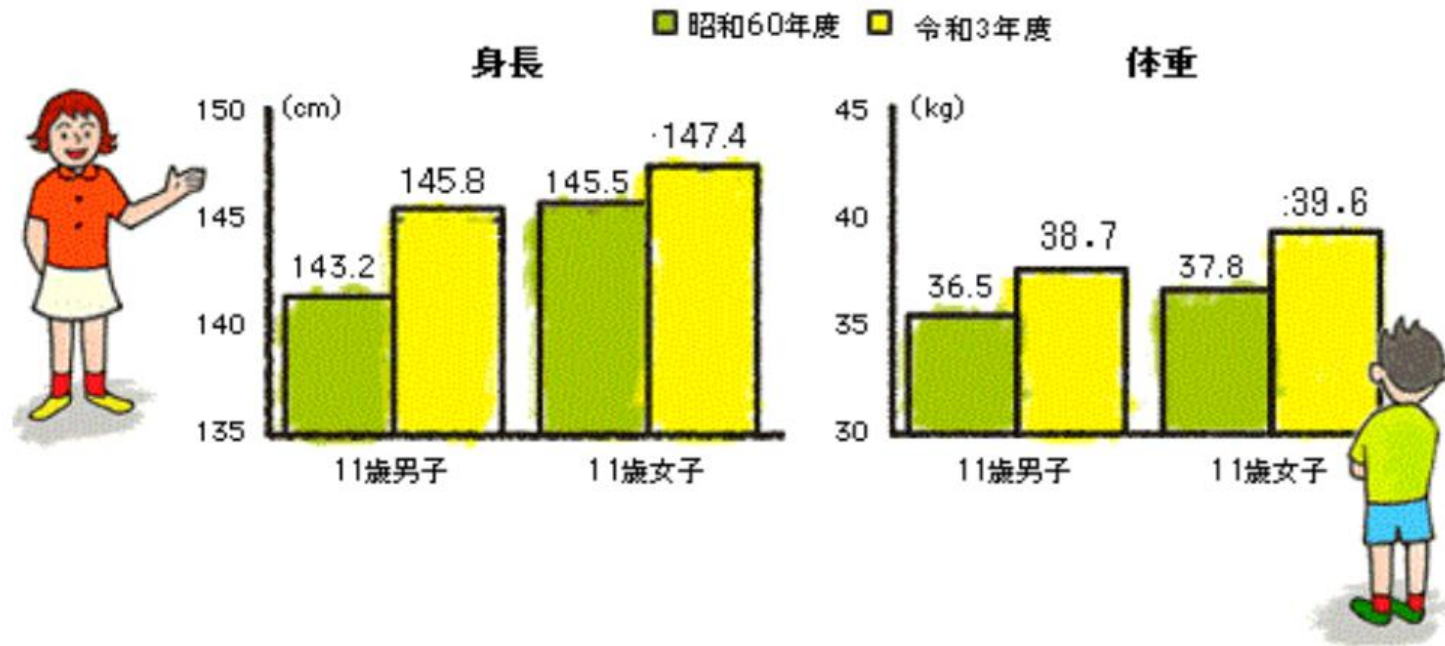
※全国平均値は小数点以下第2位で四捨五入しています。

子どもの体力の現状

体格（体の大きさ）

6年生（11歳）の身長・体重の平均値を比べてみると、今の子どもは30年前（親世代）の子どもと比べて体が大きくなっている。

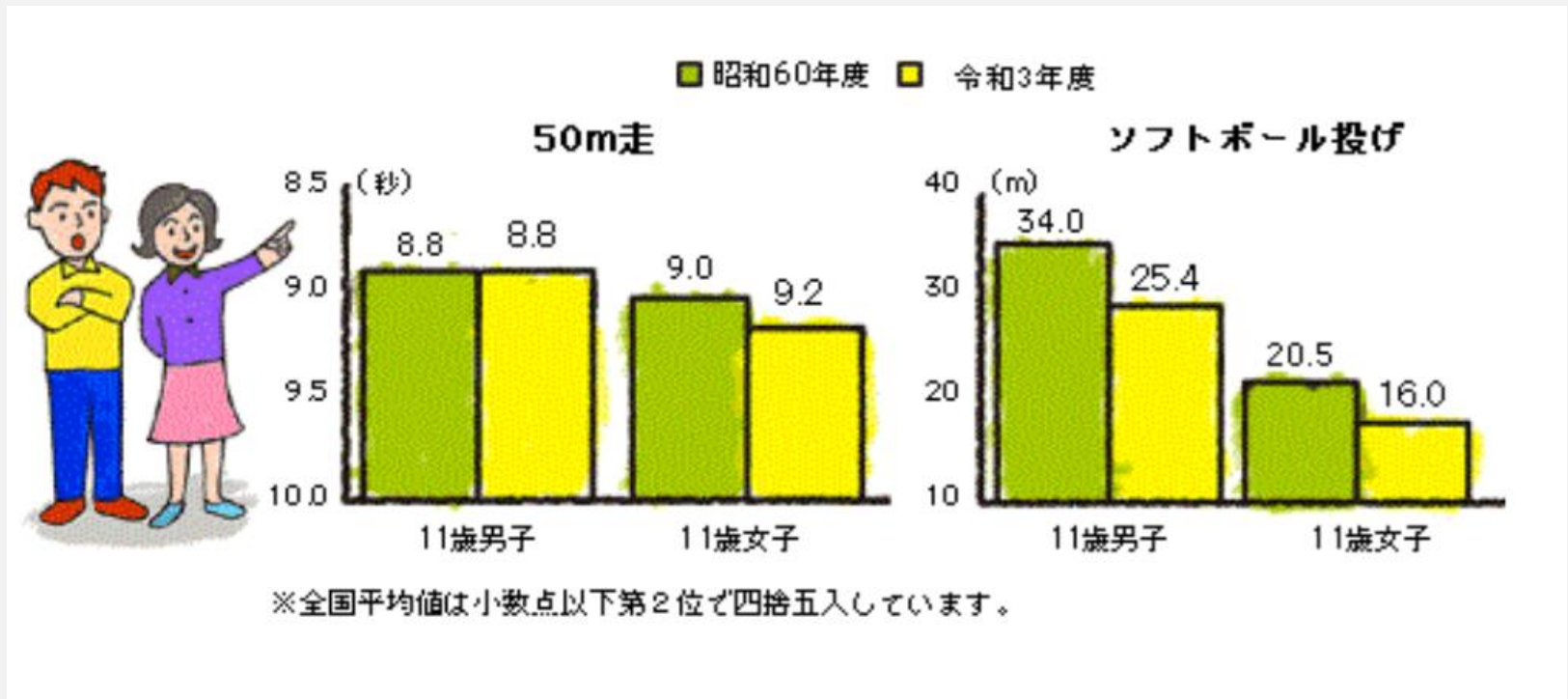
これは、昔に比べて生活がゆたかになり、栄養のある食べ物がたくさん食べられるようになったからだと考えられている。



子どもの体力の現状

運動能力

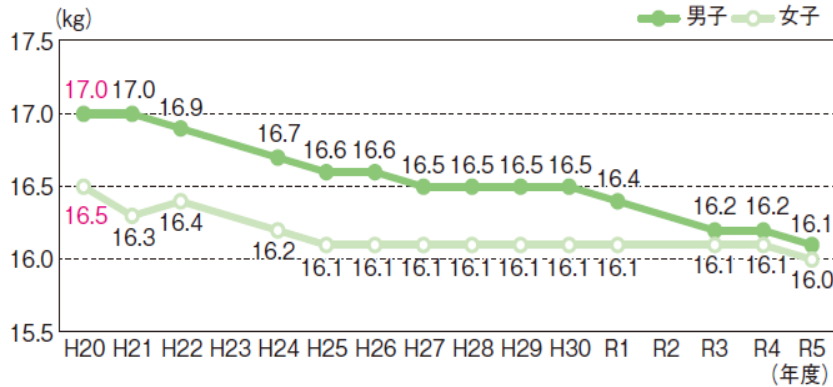
6年生（11歳）の50m走・ソフトボール投げの平均値を比べてみると、今の子どもは30年前の子どもと比べて低下してる。これは、昔に比べて**生活が便利になり**、生活の中で歩いたり、体を動かしたりすることが少なくなってきたからだと考えられている。



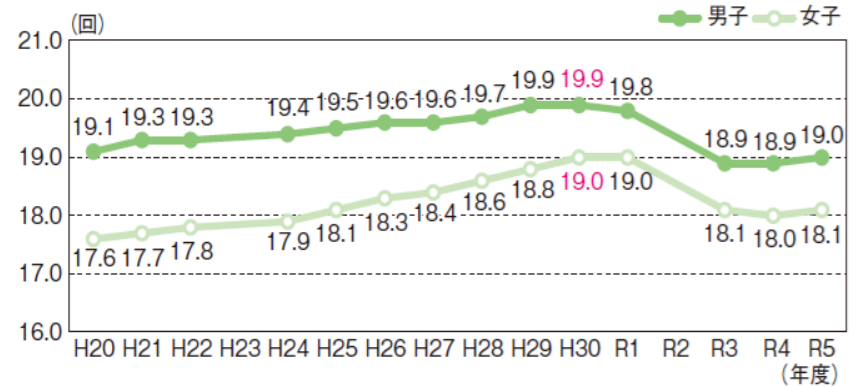
子どもの体力の現状

※赤い数値は最高値（小数第2位までの比較）

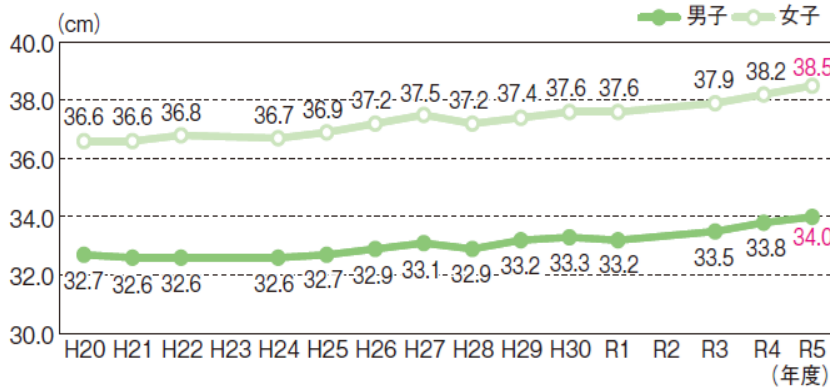
握力



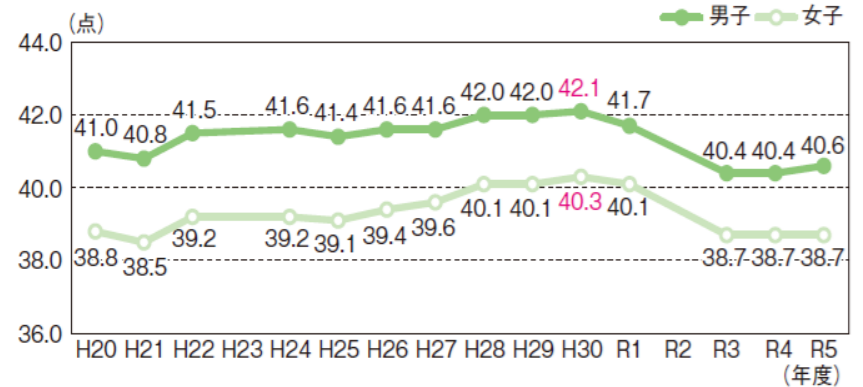
上体起こし



長座体前屈

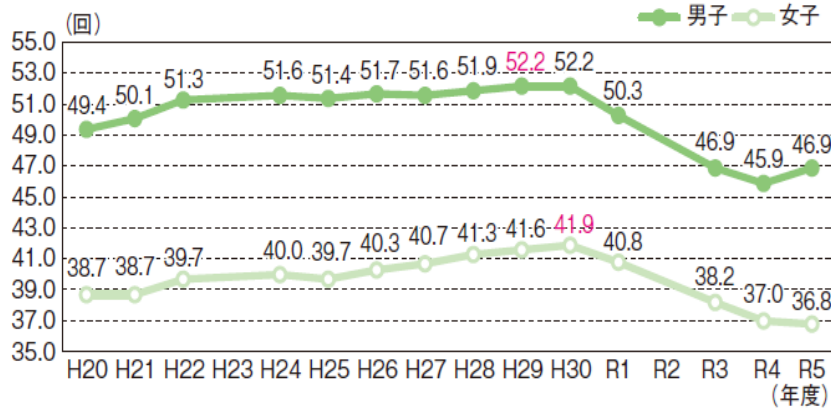


反復横とび

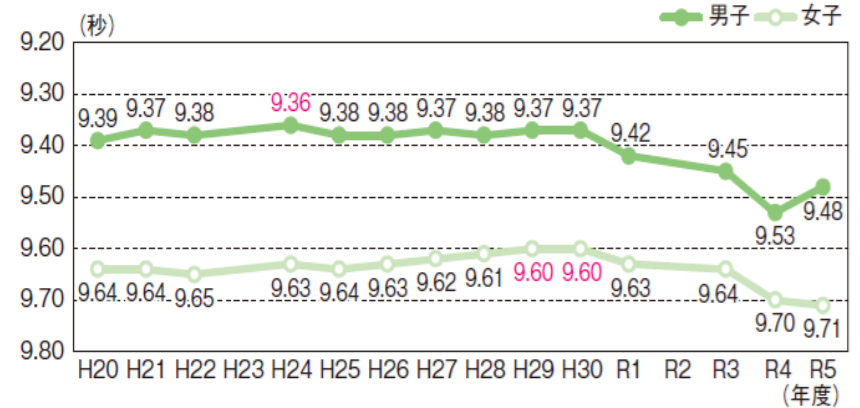


子どもの体力の現状

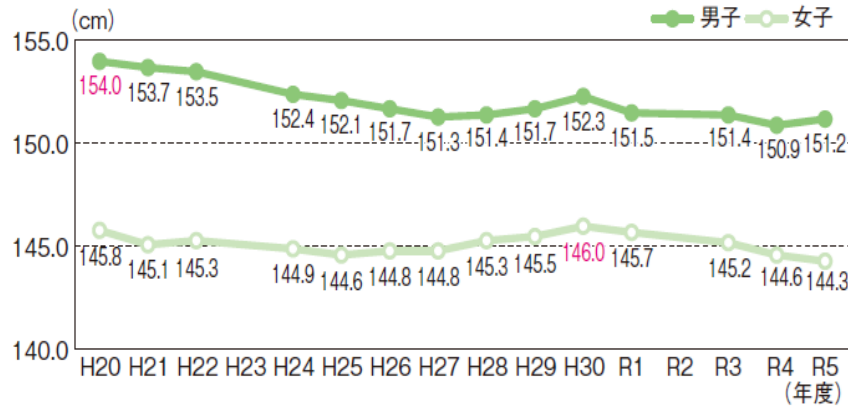
20m シャトルラン



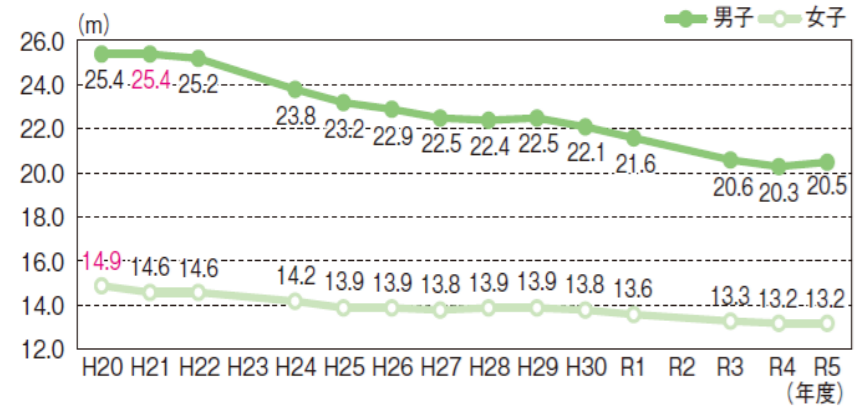
50m 走



立ち幅とび



ソフトボール投げ



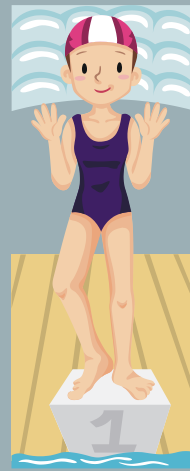
子どもの体力の現状

運動能力習慣、運動環境、地域によるもの 他
現代社会を取り巻く、色々な要素が重なり合って
体力低下につながっている・・・





Let's Wellness Life!



その1. 「健康って何？」



普段、何気なく誰もが口にする「健康」
じゃあ、人間のどんな状態が「健康」なのか？
“説明しろ”と言われても、考え方やとらえ
方は様々で、むずかしいですよねえ。

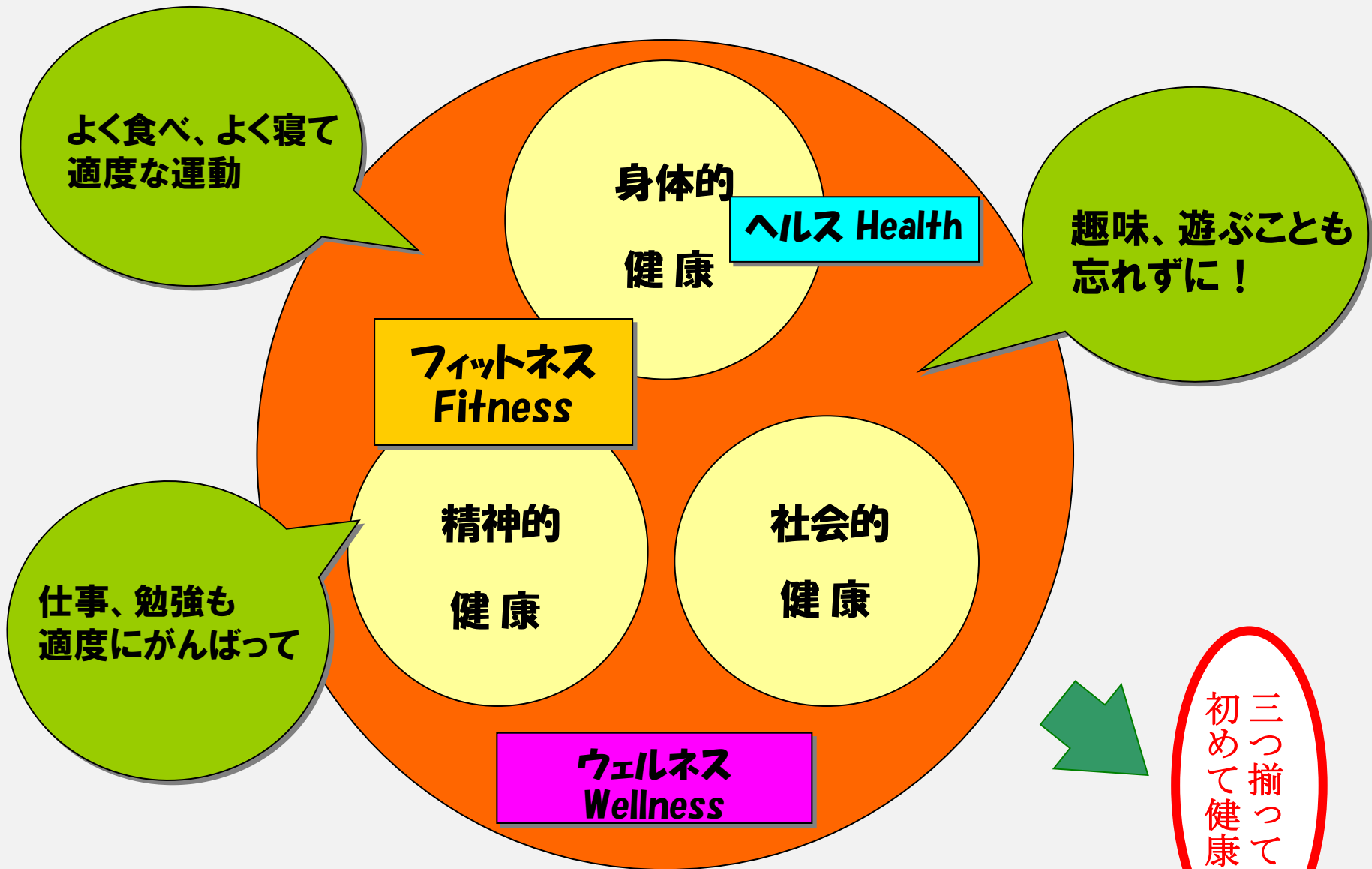


◇WHO (world health organization世界保健機関) によると、
「健康」とは

**“単に病気や障がいがないという
ことだけではなく、
身体的、精神的、そして社会的にも**

おだやかで幸福な状態を言う”





よく食べ、よく寝て
適度な運動

身体的
健康

ヘルス Health

趣味、遊ぶことも
忘れずに!

フィットネス
Fitness

精神的
健康

社会的
健康

仕事、勉強も
適度にがんばって

ウェルネス
Wellness

三つ揃って
初めて健康

＜日本ウェルネス協会＞

ひとづくり、まちづくり、ものづくり、ネットワークづくり、ふれあいづくり

◇通常は身体的なことばかりに、
健康として、目が行きがちですが、

◆加えて、病気・障害に打ち勝つ意識を
(精神的に)しっかりと持ち、

☆かつ、人生の目標・生きがいとするものを
(社会的に) 持ち、

**いきいきとした毎を送れる事こそ、
真の「健康」であると考えます。**



その2. 体力とは？

あまり普段は考えないですが、
体力には大きく分けて2つありま
す。どう たいりよく

行動体力



ぼうえい たいりよく

防衛体力

行動体力

頭で考えたことを行動に移すときに
必要となる力



1.体を動かすための力

筋力・筋パワー

2.体を動かし続けるための力

筋持久力・全身持久力

3.体の動きを調整するための力

平衡性・敏捷性・巧緻性・柔軟性

防衛体力

とていまく環境に中で起こるさまざまなことから
本能的に体を守る力

適応

1.環境のストレスに耐える力

暑さ・寒さ・低気圧・高気圧・振動・化学物質など

2.微生物などによるストレスに耐える力

細菌・ウィルス・その他の微生物など



3.生理的なストレスに耐える力

運動・空腹・喉の渇き・不眠・疲労・時差

4.精神・心理的なストレスに耐える力

不快・苦痛・恐怖・不満など

行動体力のなかの
調整力に着目したい！

コーディネーション能力

平こう性（自分の体のバランスを保つ能力）、
こうち性（運動が上手にできる能力）、
敏しょう性（すばやく動作をなしうる能力）の
3つの要素からなる神経系の機能であり、
運動をコントロールする能力です。

コーディネーション

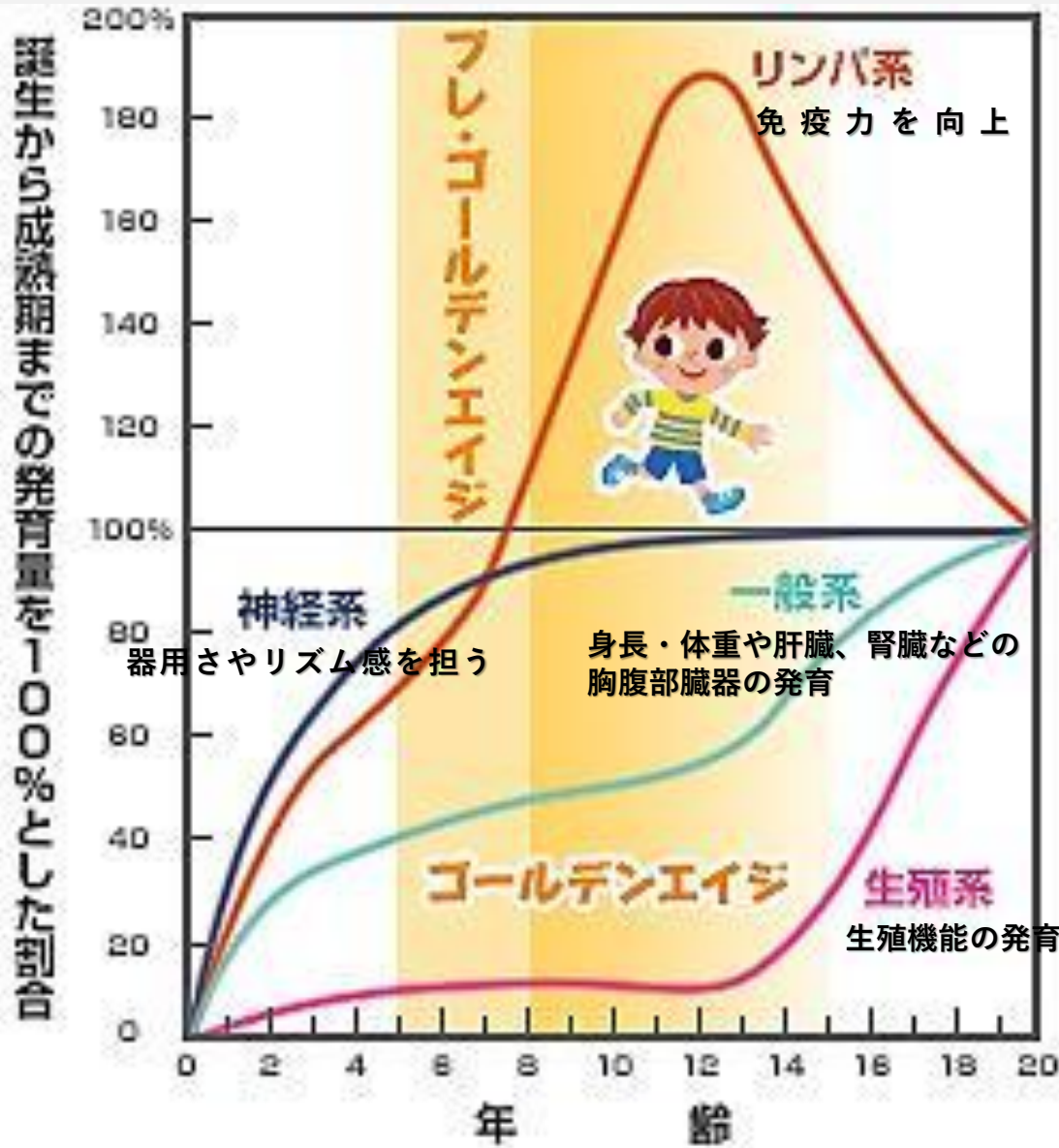
調整力は

とても大事

でも

そのまえに





成長のしくみを知らん！

スキャモンの発育発達曲線

☆一般型

一般型は身長・体重や肝臓、腎臓などの胸腹部臓器の発育を示します。特徴は乳幼児期まで急速に発達し、その後は次第に穏やかになり、二次性徴が出現し始める思春期に再び急激に発達します。思春期以降に再び発育のスパートがみられ大人のレベルに達します。

☆神経系型

器用さやリズム感を担う神経系の発達は脳の重量や頭囲で計ります。出生直後から急激に発達し、4～5歳までには成人の80%程度（6歳で90%）にも達します。

☆リンパ系型

リンパ系型は免疫力を向上させ扁桃、リンパ節などのリンパ組織の発達です。生後から12～13歳までにかけて急激に成長し、大人のレベルを超えますが、思春期過ぎから大人のレベルに戻ります。

☆生殖器系型

生殖器系型は、男児、女児共、主に子孫を残すための機能の発育です。小学校前半までは、わずかに成長するだけですが、14歳あたりから急激に発達します。生殖器系の発達で男子ホルモンや女性ホルモンなどの性ホルモンの分泌も多くなります。男性・女性の特徴が顕著に表れてきます。

スキャモンの発育発達曲線（図）を見ると



5～8 歳頃（プレ・ゴールデンエイジ）に神経型が著しく発達するのがわかります。

脳をはじめとして体内にさまざまな神経が張り巡らされていく大事な時期です。

この時期には、**遊びの要素も含んだ運動**が必要です



この運動プログラムにあたるのが、**コーディネーション（調整力）トレーニング**になります。コーディネーショントレーニングにより、多面的な基礎づくりを行えば行うほど、次にくる**ゴールデンエイジ**（9歳～12歳頃）、さらには将来への準備になるのです。

**第一線で活躍するスポーツ選手は、
コーディネーション能力が高く、その多くが子どものころに
人一倍さまざまな遊びを体験しています。**

**加えていうと、
遊びにかぎらずいろいろなスポーツを経験しているほど
専門種目を習得する際の伸びに違いが出てきます。**

遊びやさまざまなスポーツを通して、基本的な動きを体験



～体力を養うための
その③. 運動？何のために
なにをす

れば・



運動は

すこやかな成長・発達をうながす

筋肉・骨・臓器

代謝

適応



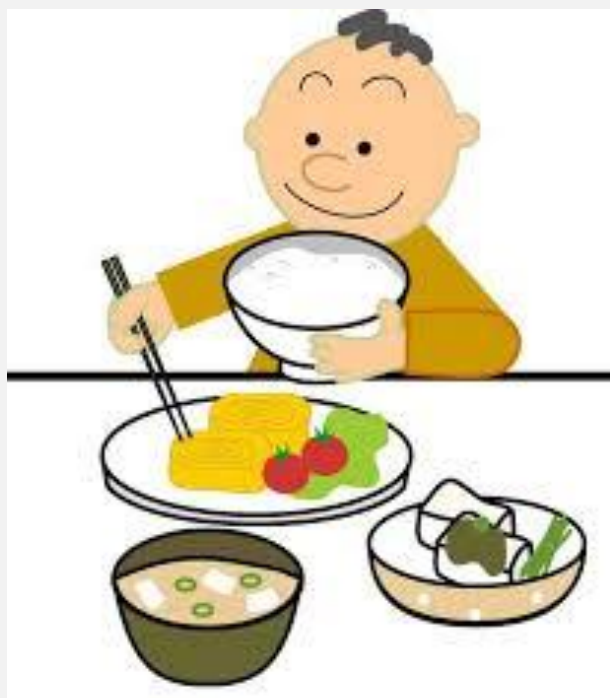
疲れにくい体になる
ケガをしにくい体をつくる
ケガからの回復を早める

休養・睡眠

超回復



食欲を増し、消化をうながす



栄養バランス



炭水化物・脂質・タンパク質・ミネラル・ビタミン

いつまでも若々しさを保つ





スキル
技術



調整力



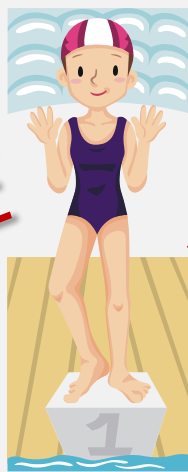
スポーツが上手くなる



心肺機能



柔軟性



筋力



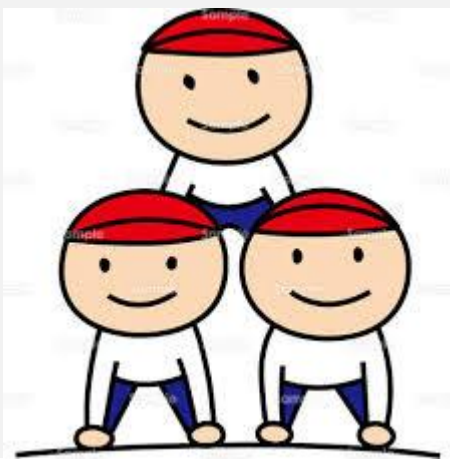
勉強にプラスの効果



脳の発達

豊かな心を育てる

成功



自信

失敗



ストレスを和らげる 精神的なリラックスを生み出す

脳内物質・エンドルフィン



達成感

外見的な魅力を高める



笑顔!



?



運動＝体づくりのために

①心肺機能を高めよう！[持久力]

体に必要な栄養・酸素を全身に送る、
いわばポンプ機能（ジョギング・ウォーキングなど）

②筋力を高めよう<保とう>！

筋肉の機能をたかめることで、体のすみずみの
毛細血管を発達させる。（筋力トレーニングなど）

③柔軟性を保とう！（ストレッチ体操など）

鍛えた筋肉が効率よく働く機能を発達させる。

④調整力（コーディネーション能力）

を高めよう！

身体機能を上手に使う力を発達させる。

体・頭を使った様々な運動

考えてみよう!

運動=身体を動かす!

では、どんなこと?????



走る
打つ
はう
る

跳ぶ
捕る
転がる

投げる
登る
押す

蹴る
つかむ
引っ張

ぶら下がる

持ち上げる

座る

しゃがむ

立ち上がる

ささえる

倒す

引きちぎる

はさむ

押さえる

転がす

泳ぐ

もぐる

飛び込む

など

< 定位能力 >

動いているものと自分の位置関係を把握する

< 変換能力 >

状況の変化に合わせて、素早く動作を切り換える

< リズム能力 >

リズム感を養い、動くタイミングを上手につかむ

< 反応能力 >

合図に素早く反応し適切に対応する

< バランス能力 >

バランスを正しく保ち、崩れた姿勢を立て直す

< 連結能力 >

身体全体をスムーズに動かす

< 識別能力 >

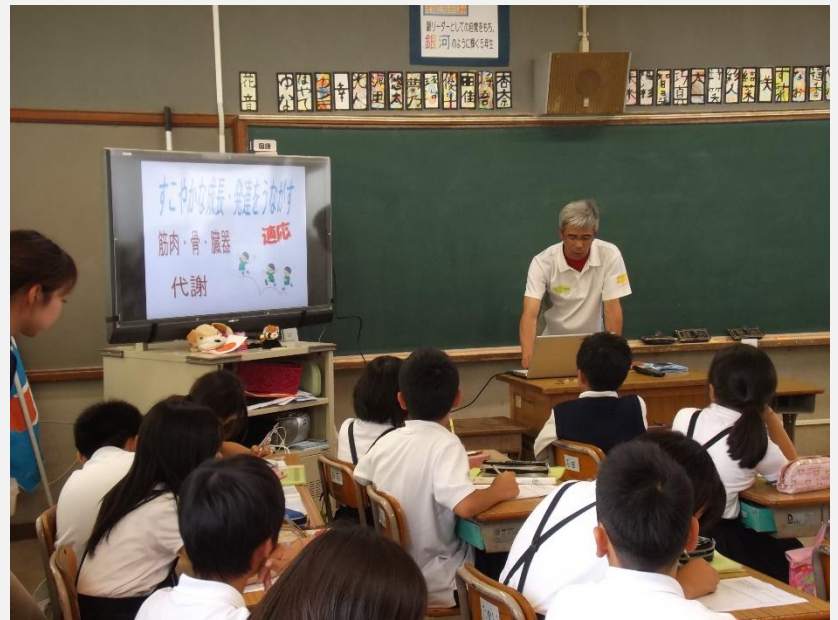
道具やスポーツ用具などを上手に操作する

健康づくりの3要素とは！

運動 の他は？

栄養 休養

が大事なんですよ！



子供の運動習慣形成と体力向上に向けた取組について

令和5年12月



- 令和元年度から続く子供の体力の**低下傾向に見られた改善の兆し**を、**運動習慣の本質的な改善**につなげることが必要
- いわゆる「**ゴールデンエイジ**」（概ね幼児期から中学生まで）の**運動習慣**は、生涯にわたる体力・運動能力等の基盤となる極めて重要な要素であることから、**生活の中に運動(習慣)を取り入れ定着させるための取組**を進めていくことが必要
- 学校・家庭・地域における運動機会を確保**し、子供の**運動習慣の形成や体力向上**につなげられるよう以下の取組を実施

地 域

1. 幼児期における運動習慣形成の取組を強化

- ① 毎日合計60分以上、楽しく体を動かすことを目安として示した「**幼児期運動指針**」や、望ましい動きや能力を獲得するための運動プログラム「**アクティブチャイルドプログラム**」の周知・普及
- ② 幼児期からの**運動遊びの普及**や、**保護者等の行動変容に関する調査分析**の実施

2. 子供のニーズに応じた多様なスポーツ環境の整備を促進

競技・大会志向の特定種目の活動だけでなく、アーバンスポーツ、レクリエーション、体験型キャンプ、パラスポーツなど、従来の部活動では対応しきれていない、子供のニーズに応じた**多様なスポーツ機会を提供**（地域クラブ活動の運営団体等の整備、指導者の確保、デジタル動画の活用、コミュニティ・スクール等の仕組みの活用等）

学 校

3. 体育授業における児童生徒の運動意欲向上

- ① **体育授業へのアスリートの派遣**を通じた児童生徒の運動意欲を喚起する教育手法の普及
- ② **GIGAスクール環境下における体育活動の充実**に向けた、一人一台端末を活用した指導方法の研究・成果の普及

4. 授業以外の児童生徒の運動時間を増加

小・中学校における時間割例を含めた、**業前業間や放課後等**における体力向上の**取組事例を周知**

家 庭

5. 家庭で運動を実践するキッカケを提供

学校や地域で身に付けた運動習慣等を家庭でも実践するキッカケとして、**室伏長官が考案・実演する動画**を作成。幅広いプロモーションを実施。

- ・**身体診断「セルフチェック」動画をe-learning化**
- ・**「力を引き出す」ウォーミングアップ動画**を作成・公表

※ この他、今後の対策に向けた幅広い分析・研究に生かすため、全国体力・運動能力、運動習慣等**調査データの提供制度を開始**予定（令和6年から提供開始）

子どもの運動機会



子どもの運動環境(体力の二極化)

(スポーツ格差)

1960年代に始まったスポーツ少年団をはじめとする、子どもの地域スポーツクラブが普及していった。元来は幅広く子どもたちにいろいろなスポーツを味わってほしいという思いからスタートしたものの。

いろいろなスポーツを楽しむことが本旨であったが、大人たち(「勝利至上主義」の指導者)が関わることで、スタイルが変わってしまった。

送り迎えやコーチの弁当など家庭の負担が増えて、経済的、時間的余力がある家庭の子どもだけが地域のクラブに積極的に関われるようになっていった。

通商産業省(当時)が1990年に出した「スポーツビジョン21」では、**スポーツの産業化**ということがうたわれた。スポーツは市場経済に取り込まれ、子どもは「消費者」になり、無償あるいは安価で楽しめる文化活動だったものが、有料化、高額化していく動きが始まった。その結果、**スポーツへのアクセスに家庭の経済資源の多寡が強く影響するようになってしまった**と考えられる。

子どもの運動環境(体力の二極化)

(スポーツ格差)

＜スポーツ(運動)は権利＞

2011年にスポーツ基本法ができ「**スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利**」として人権のひとつに数えられた。国際的にはユネスコが1978年に「**体育・スポーツ国際憲章**」で「**体育・スポーツの実践はすべての人にとって基本的権利である**」と宣言していて、**日本は30年以上遅れているとされる**。そのため、日本ではスポーツが権利であるという権利思想が国民の中にいまだに浸透していない。

本来、**権利というものは、高い料金を売買してはいけないもの**。オリンピック選手になりたいという少数は別に、ごく普通の子どもたちがサッカー・野球・バレーボールなどをすることに、**高いお金を払わないといけないというのは問題**があると思われる。

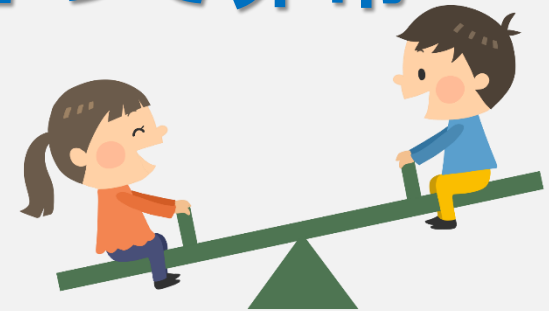


子どもの運動環境(体力の二極化)

(スポーツ格差)

スポーツ活動は、体を動かして体力を高めるだけでなく、技術の習得や戦略の工夫などには知的な側面もあり、また、**ひらめきや感性、フェアプレー、スポーツマンシップなどの道徳性も求められる**。つまり、子どもがスポーツを経験するということは、**総合的な人間性を育む**ということ。

スポーツ(運動)することは子どもたちの発達や成長、そして未来にとって非常に重要な権利



校庭や公園(空き地)での運動制限や場所の減少

ボール投げ・木のぼり・高所からのとびおりなどは自由にできなくなった 権利奪ってない?

子どもの運動環境(地域格差)

「全国体力・運動能力、運動習慣など調査で福井県が全国1位」

全国体育テストは、小学5年生と中学2年生を対象に平成20年から実施されている抽出テスト。握力など実技に関する調査の成績を得点化して体力合計点を小学生と中学生で単純平均して比較。福井県は52.12ポイントで1位、秋田県が51.43ポイントで2位。福井県と秋田県は全国学力テストでも上位2県で、学力、体力とも全国にトップクラス。

福井県では、昭和60年に子供たちの体力・運動能力にピークを迎え、それ以後下がり続け平成10年には最低に。福井県は「一人ひとりの運動能力を的確に把握し、計画的に指導してきた成果」と好成绩の要因を強調。その裏づけとして、福井県は体育専門教員数が全国1位の1校あたり0.46人で全国平均の8倍。

永平寺町上志比小学校では、午前8時の授業前に校庭に集まった子供たちがそれから5分間、校庭や裏山を走る「5分間走」が日課となっている。また各学校でも放課後に取組んでいるのが「スポーツ大好きっ子育成事業」で運動が得意でない子も自主的に参加して運動の楽しさに触れている。学校、家庭、地域が三位一体となって子供の体力・運動能力向上に取り組んでいる結果。



子どもの運動環境(地域格差)

都道府県別集計

I 小学校児童の調査結果

→ 1 実技の状況 平均値一覧

— 国公立別・公立学校都道府県別 (指定都市を含む) —

● 男子

種別	児童数	身体測定										耐久力					体力 合計点	体力 偏差値
		体重 (kg)	上半 身高 (cm)	身長 体前屈 (cm)	握力 (kg)	20m 5+10m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	1分 投げ (回)	A	B	C	D	E				
全国集計	504,430	16.13	19.00	33.99	40.61	46.91	0.46	151.16	20.51	52.80	10.4%	21.8%	32.1%	23.2%	12.5%	-3.6		
公立	400,654	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	0.46	151.15	20.52	52.59	10.4%	21.8%	32.1%	23.2%	12.6%	-3.6		
私立	2,938	16.70	19.43	35.96	41.51	47.29	0.34	154.94	20.54	54.21	12.4%	24.7%	35.3%	19.1%	8.6%	9.3		
私立	2,847	16.17	18.26	32.95	41.29	45.85	0.36	152.88	19.65	52.25	8.6%	20.2%	34.6%	24.7%	11.9%	-7.3		

都道府県	児童数	身体測定										耐久力					体力 合計点	体力 偏差値
		体重 (kg)	上半 身高 (cm)	身長 体前屈 (cm)	握力 (kg)	20m 5+10m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	1分 投げ (回)	A	B	C	D	E				
北海道	18,814	16.69	18.63	33.97	40.91	44.34	0.74	152.01	20.91	52.29	10.4%	21.2%	30.4%	23.9%	14.1%	-6.4		
青森県	4,500	16.43	19.24	32.70	42.43	49.92	0.73	150.29	20.61	52.69	10.7%	22.9%	31.1%	22.6%	12.7%	-1.7		
岩手県	4,538	16.67	19.09	33.09	41.98	50.43	0.83	150.92	22.26	53.34	11.5%	24.3%	31.8%	20.7%	11.7%	3.4		
宮城県	9,153	16.35	18.82	34.32	40.95	45.96	0.58	148.30	21.12	52.28	10.2%	20.1%	32.4%	24.3%	13.1%	-7.0		
秋田県	3,077	16.92	19.59	35.00	43.02	51.54	0.61	154.27	22.71	54.73	16.6%	25.2%	30.5%	17.7%	10.0%	14.2		
山形県	3,958	16.50	19.12	33.26	41.99	49.19	0.64	151.36	21.37	52.92	9.5%	23.7%	32.3%	22.6%	11.4%	-0.8		
福島県	6,840	16.17	18.71	32.77	41.37	46.58	0.61	152.26	20.33	52.27	9.0%	21.8%	32.8%	23.9%	13.0%	-5.4		
茨城県	11,641	16.59	20.28	36.26	41.56	49.06	0.43	152.68	20.03	54.39	18.2%	23.3%	29.5%	19.1%	10.9%	11.8		
栃木県	7,744	16.00	19.05	32.77	41.41	47.51	0.61	149.15	20.18	52.12	9.8%	21.3%	32.0%	22.8%	14.1%	-5.8		
群馬県	7,297	16.06	19.17	34.34	40.81	47.29	0.47	149.25	20.14	52.67	11.5%	21.9%	30.4%	23.3%	13.0%	-2.9		
埼玉県	28,378	16.00	20.68	35.34	42.53	50.61	0.36	153.82	19.52	54.31	12.8%	26.1%	32.7%	19.9%	8.6%	10.4		
千葉県	24,567	16.10	19.22	33.97	40.64	46.99	0.45	150.81	19.74	52.64	11.2%	21.9%	31.2%	22.5%	13.2%	-2.8		
東京都	46,546	16.24	19.23	34.52	40.49	45.98	0.40	150.41	19.94	52.69	10.0%	21.5%	32.8%	23.8%	12.0%	-4.3		
神奈川県	35,064	16.35	18.93	34.64	37.97	43.80	0.50	149.29	19.76	51.58	8.0%	19.6%	32.6%	25.5%	14.2%	-12.1		
新潟県	8,405	16.71	19.40	35.24	42.97	52.00	0.51	153.72	20.52	54.32	14.7%	24.5%	30.9%	20.9%	9.6%	9.9		
富山県	3,776	16.37	19.25	33.84	43.38	52.46	0.52	156.85	21.58	54.29	15.2%	24.3%	31.0%	20.2%	9.4%	9.9		
石川県	4,539	16.67	19.66	36.88	43.86	53.43	0.34	154.90	21.72	55.72	18.6%	27.2%	29.5%	17.2%	7.5%	21.1		
福井県	3,230	16.80	20.02	36.97	43.95	57.21	0.36	157.79	22.46	56.44	21.7%	26.9%	28.6%	15.6%	7.2%	25.7		
山梨県	2,923	15.90	18.78	33.40	40.13	43.18	0.50	149.04	20.15	51.69	7.5%	20.4%	32.6%	25.3%	14.2%	-11.6		
長野県	7,949	16.72	18.50	34.55	41.09	47.59	0.54	153.47	21.48	53.29	11.3%	22.4%	32.4%	22.7%	10.8%	0.1		
岐阜県	9,215	15.93	18.67	34.18	40.62	44.39	0.40	149.55	20.87	52.21	8.8%	21.7%	32.7%	23.9%	12.8%	-6.2		
静岡県	14,929	15.73	18.51	32.74	40.60	48.02	0.52	150.79	19.70	51.98	8.3%	20.7%	33.4%	24.9%	12.7%	-8.6		
愛知県	33,093	15.62	17.97	33.42	39.78	42.53	0.57	150.56	19.47	51.01	7.7%	18.6%	31.7%	25.9%	16.1%	-15.7		
三重県	7,298	16.17	18.51	33.69	41.58	47.30	0.53	150.98	20.56	52.53	10.4%	20.9%	32.5%	24.0%	12.2%	-4.8		
滋賀県	6,544	16.00	18.74	32.70	40.14	46.40	0.47	152.41	20.42	52.06	8.1%	21.5%	32.9%	24.7%	12.8%	-8.0		
京都府	9,434	15.78	18.68	33.88	38.96	47.74	0.31	149.39	20.80	52.18	8.7%	20.6%	33.3%	25.1%	12.4%	-8.1		
大阪府	34,919	15.87	18.68	33.97	38.61	44.51	0.48	149.30	20.12	51.41	7.6%	19.8%	32.4%	25.6%	14.7%	-12.9		
兵庫県	22,578	15.63	18.84	32.54	39.55	45.71	0.43	151.61	20.75	51.84	9.0%	20.3%	31.9%	24.8%	14.1%	-9.7		
奈良県	5,295	16.02	18.74	33.47	40.94	47.41	0.36	151.72	20.82	52.83	10.7%	23.0%	32.1%	21.9%	12.9%	-0.5		
和歌山県	3,637	16.35	19.44	34.45	41.83	48.25	0.53	150.64	21.04	53.12	11.9%	23.8%	29.8%	22.4%	12.1%	1.2		
鳥取県	2,277	16.15	19.09	33.11	41.73	53.17	0.46	151.59	21.27	53.41	10.2%	25.6%	32.5%	20.9%	10.7%	4.1		
島根県	2,810	16.08	18.90	33.40	41.47	51.19	0.28	154.36	22.54	53.97	11.6%	25.5%	33.4%	20.8%	8.7%	7.6		
岡山県	7,928	15.68	19.21	32.92	42.01	47.05	0.41	153.56	20.46	52.95	12.6%	21.4%	31.8%	21.5%	13.0%	-0.5		
広島県	11,884	16.11	19.07	33.90	40.87	46.75	0.43	151.75	22.25	53.16	11.7%	22.3%	32.0%	22.7%	11.3%	0.0		
山口県	5,116	15.89	18.47	32.51	40.63	49.71	0.54	150.21	20.80	52.02	7.4%	22.0%	34.0%	23.5%	13.1%	-7.2		
徳島県	2,700	16.12	18.56	32.82	41.55	46.16	0.49	150.77	21.27	52.49	10.3%	20.6%	32.1%	25.3%	11.8%	-6.2		
香川県	3,926	15.44	19.02	33.15	41.17	46.88	0.46	151.97	20.73	52.29	10.3%	21.1%	32.0%	23.0%	13.6%	-5.3		
愛媛県	5,325	15.73	18.39	32.98	41.67	49.85	0.53	150.44	20.42	52.72	10.6%	22.2%	31.5%	23.5%	12.2%	-2.9		
高知県	2,458	16.39	19.32	35.36	41.96	47.83	0.54	151.88	21.03	53.39	10.8%	24.2%	31.1%	21.9%	11.9%	1.3		
福岡県	22,891	16.10	19.03	34.24	40.81	48.45	0.47	151.37	21.50	53.11	10.9%	22.9%	32.3%	22.0%	11.3%	0.4		
佐賀県	3,897	16.05	18.68	34.57	40.38	48.27	0.37	148.54	21.71	52.78	10.8%	21.8%	31.6%	24.1%	11.7%	-3.2		
長門県	5,506	15.90	18.35	32.28	39.77	48.47	0.42	151.81	21.78	52.29	8.8%	21.5%	33.6%	23.6%	12.5%	-5.8		
熊本県	7,933	15.55	18.90	33.46	41.34	50.32	0.47	151.08	21.22	53.21	11.7%	23.3%	32.3%	20.9%	11.8%	2.3		
大分県	4,869	16.72	20.34	36.67	43.31	52.51	0.37	155.10	22.85	55.83	17.7%	27.5%	31.0%	17.2%	8.6%	21.4		
宮崎県	4,724	16.12	19.28	34.34	41.59	48.46	0.54	151.46	21.58	53.25	12.3%	22.5%	32.3%	21.0%	11.9%	2.8		
鹿児島県	7,213	16.01	18.18	33.42	39.49	46.83	0.49	149.57	21.51	51.87	7.3%	20.8%	33.9%	25.1%	12.9%	-9.8		
沖縄県	7,492	16.24	18.70	33.73	40.34	44.82	0.61	150.97	22.53	52.33	10.1%	21.1%	31.5%	24.1%	13.9%	-6.2		

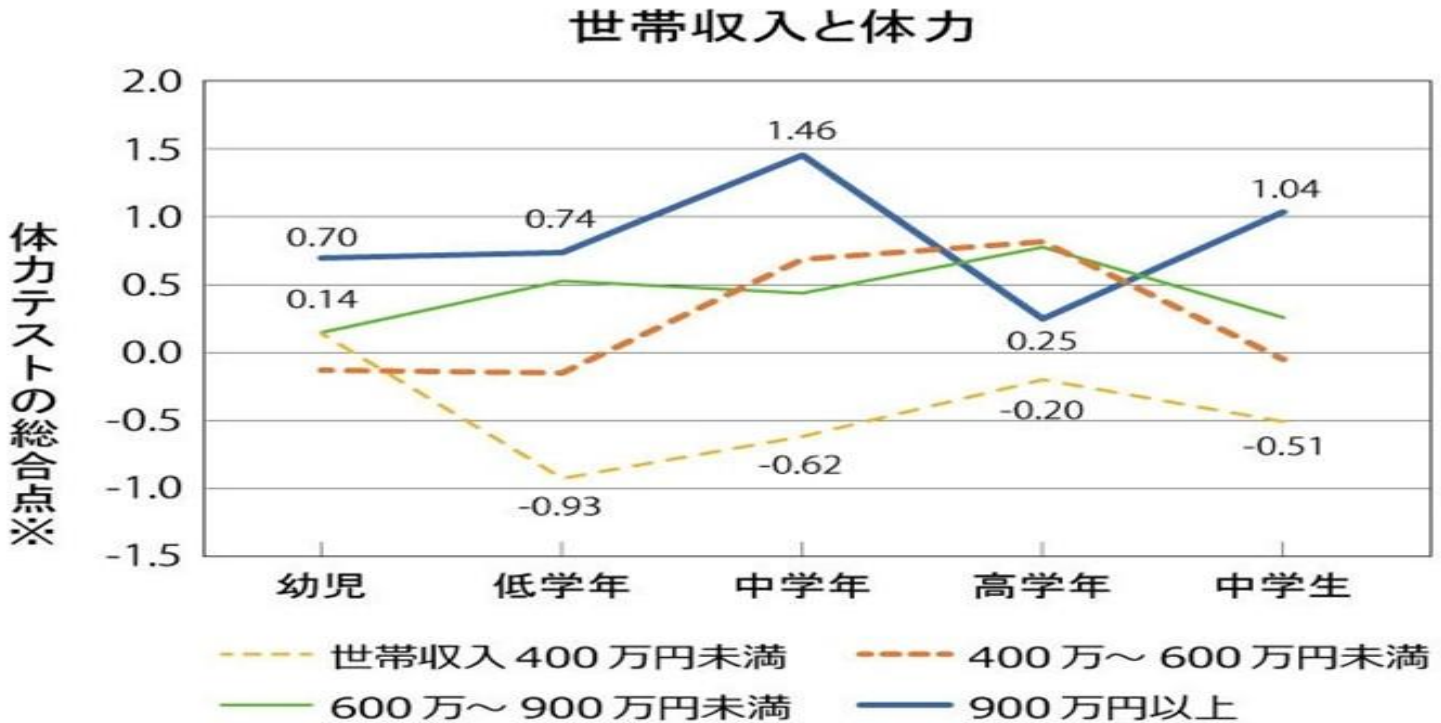
子どもの運動環境(収入格差)

収入が少ない家庭の子ほど、体力や運動能力が低い傾向がある——
そんな「子どものスポーツ格差」が指摘されている。学力の低い子は体力・運動能力も低い傾向があり、学年が上がるにつれて格差が拡大していくことも、指摘されている。コロナ禍の影響も深刻。

筑波大体育系 清水紀宏教授（スポーツ経営学）



子どもの運動環境(収入格差)



2018年に岐阜県多治見市の協力を得て実証研究
公立の幼稚園と保育園、小中学校の子どもたちの体力データと、
保護者用アンケート、小5～中3の子ども向けアンケートをひもづけて検証

筑波大体育系 清水紀宏教授 (スポーツ経営学)



全国学力調査都道府県べつ順位平成26年度

- | | |
|----------------|---------------------|
| • 1 福井県 70, 0 | 38 福島県 62, 9 |
| • 2 秋田県 69, 7 | 38 福岡県 62, 9 |
| • 3 富山県 68, 0 | 40 鹿児島県 62, 8 |
| • 4 石川県 67, 5 | 41 滋賀県 62, 4 |
| • 5 静岡県 67, 0 | 42 和歌山県 61, 9 |
| • 6 群馬県 66, 8 | 42 岡山県 61, 9 |
| • 7 山口県 66, 5 | 44 佐賀県 61, 8 |
| • 8 愛媛県 66, 2 | 45 大阪府 61, 5 |
| • 9 東京都 66, 1 | 46 高知県 60, 3 |
| • 10 青森県 65, 8 | 47 沖縄県 57, 1 |



全国体力運動能力調査平成27年度都道府県順位

- 1 福井県 1 1 7, 6 3
- 2 茨城県 1 1 5, 2 6
- 3 新潟県 1 1 4, 5 7
- 4 秋田県 1 1 4, 2 7
- 5 石川県 1 1 3, 6 5
- 6 埼玉県 1 1 3, 4 9
- 7 広島県 1 1 3, 3 3
- 8 富山県 1 1 2, 7 6
- 9 千葉県 1 1 2, 4 4
- 10 大分県 1 1 2, 1 3
- 38 京都府 1 0 7, 4 8
- 39 滋賀県 1 0 7, 4 0
- 40 宮城県 1 0 7, 1 5
- 41 山形県 1 0 6, 8 4
- 42 兵庫県 1 0 6, 5 7
- 43 沖縄県 1 0 6, 3 6
- 44 北海道 1 0 6, 2 3
- 45 大阪府 1 0 5, 6 8
- 46 愛知県 1 0 5, 6 4
- 47 神奈川県 1 0 5, 0 5



小学生携帯電話・スマートフォン所持率 ランキング

- 1 東京都 68, 1
- 2 神奈川県 66, 8
- 3 大阪府 65, 8
- 4 沖縄県 61, 6
- 5 千葉県 61, 4
- 6 兵庫県 61, 1
- 7 埼玉県 60, 4
- 8 福岡県 60, 3
- 9 奈良県 59, 6
- 10 京都府 59, 5
- 31 富山県 52, 1
- 32 福井県 52, 0
- 37 石川県 49, 2
- 41 鳥取県 47, 9
- 42 栃木県 47, 7
- 43 青森県 46, 5
- 44 山形県 45, 6
- 45 岩手県 45, 5
- 46 長野県 43, 5
- 47 秋田県 43, 1



持ち家比率

• 1	秋田県	78, 4	全国平均	61, 1
• 2	富山県	77, 5	39	宮城県 60, 8
• 3	福井県	77, 4	39	京都府 60, 8
• 4	山形県	75, 5	41	愛知県 57, 8
• 5	新潟県	73, 9	42	北海道 57, 2
• 5	岐阜県	73, 9	42	神奈川 57, 2
• 7	三重県	73, 0	44	福岡県 53, 6
• 7	島根県	73, 0	45	大阪府 53, 0
• 9	和歌山	72, 8	46	沖縄県 50, 2
• 21	石川県	69, 1	47	東京都 44, 6



都道府県別離婚率（人口千対）

• 1 沖縄県	2, 59	40 石川県	1, 53
• 2 北海道	2, 09	41 岩手県	1, 55
• 3 大阪府	2, 08	42 福井県	1, 51
• 3 宮崎県	2, 08	43 島根県	1, 50
• 5 福岡県	2, 04	44 山形県	1, 47
• 6 和歌山	2, 01	44 富山県	1, 47
• 7 高知県	1, 94	46 秋田県	1, 42
• 8 東京都	1, 92	47 新潟県	1, 41
• 9 鹿児島	1, 87		
• 10 熊本県	1, 86	全国平均	1, 84



『つながり格差』が学力格差を生む

- 離婚率の低さ 家庭・家族とのつながり
- 持ち家率の高さ 地域・近隣社会との子どもとのつながり
- 不登校率の低さ 学校・教師と子どもとのつながり

学校(小学校)での運動の現状

[80点満点]

小学校5年		種目別平均								体力 合計点
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	
		kg	回	cm	点	回	秒	cm	m	
男子	R5全 国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
	R5大阪府	15.87	18.68	33.37	38.61	44.51	9.48	149.30	20.12	51.41
	R4全 国	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
	R4大阪府	16.00	18.56	33.26	38.22	43.12	9.53	149.54	19.89	51.16
女子	R5全 国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
	R5大阪府	15.69	17.60	37.91	36.56	34.17	9.75	141.45	12.56	52.56
	R4全 国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31
	R4大阪府	15.91	17.55	37.79	36.37	34.03	9.73	142.42	12.64	52.78

[80点満点]

中学校2年		種目別平均								体力 合計点	
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび		ボール投げ
		kg	回	cm	点	秒	回	秒	cm		m
男子	R5全 国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
	R5大阪府	28.18	25.91	42.56	51.04	413.17	77.34	8.07	192.82	19.63	40.21
	R4全 国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
	R4大阪府	28.19	25.80	42.33	50.92	425.07	77.17	8.12	193.30	19.63	40.00
女子	R5全 国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
	R5大阪府	22.60	21.63	45.18	45.34	314.51	49.75	9.08	162.62	11.85	45.75
	R4全 国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42
	R4大阪府	22.72	21.59	45.12	45.74	314.62	50.79	9.09	163.77	11.87	46.06

○印: 全国と大阪府の差がR4よりも改善 ☆印: 全国を上回っている ★印: 全国と同一 ◎印: R4よりも記録が改善 (政令市を含む)

学校での運動の現状(愛知県)

【資料8】

2023年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

愛知県スポーツ
推進計画基本編
II

1 全国調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 国が全国的な子供の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 教育委員会や学校においても、本調査結果を活用し、子供の体力や運動習慣等の状況を把握するとともに、課題に対応した施策の実施や体育・保健体育の授業等の充実・改善に役立てる。

(2) 調査の対象及び内容

- ① 調査対象者
 - ア 小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の5年生全員
 - イ 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程及び特別支援学校中学部の2年生全員
- ② 調査内容
 - ア 児童生徒に対する調査
 - ・ 実技に関する調査
 - [小学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび
20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - [中学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび
持久走(男子1500m、女子1000m)又は20mシャトルラン
50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - ・ 質問紙調査(運動習慣、生活習慣等に関するもの)
 - イ 学校に対する調査
 - ・ 質問紙調査(子供の体力向上や運動習慣の確立に向けた学校の取組等に関するもの)

(3) 調査の実施時期

2023年4月～7月

2 調査学校数、児童生徒数

(1) 全国の調査学校数、児童生徒数

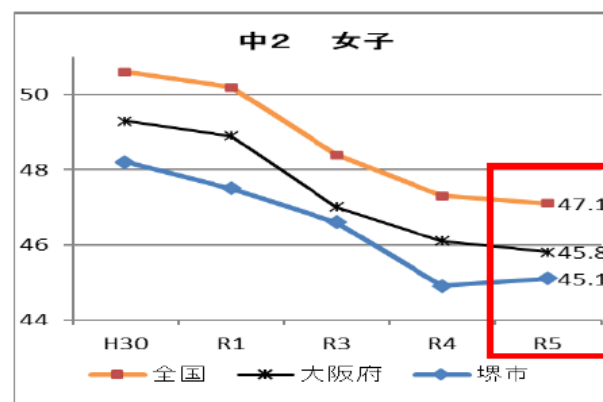
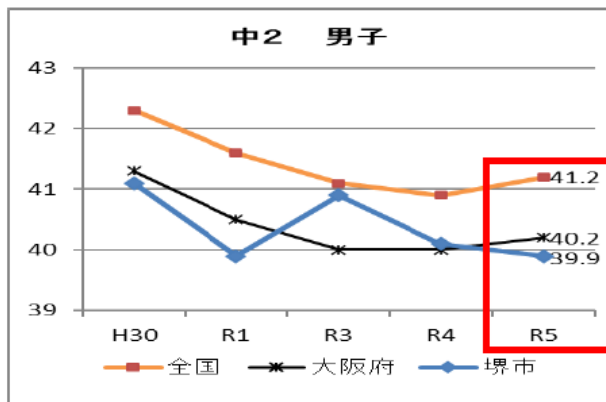
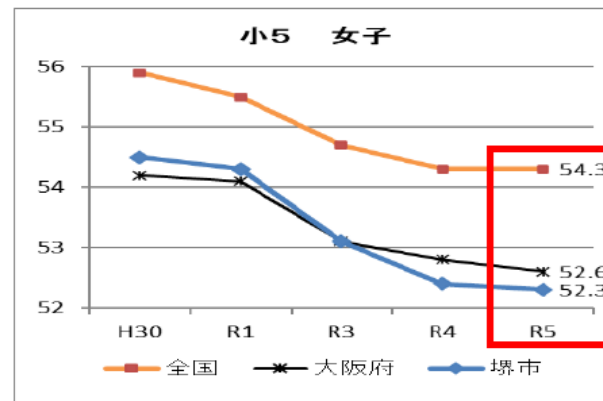
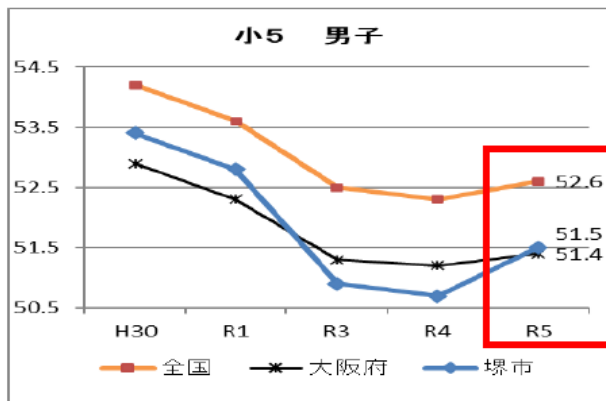
	調査学校数	調査児童生徒数
小学校	18,918校	990,165人
中学校	10,021校	923,980人

(2) 愛知県の調査学校数、児童生徒数

	調査学校数	調査児童生徒数
小学校	975校	64,606人
中学校	425校	58,214人

学校(小学校)での運動の現状

体力・運動能力の堺市の平均値
(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)



小学5年男子は大阪府を上回り、全国を下回った
小学5年女子、中学2年男子・女子は大阪府や全国を下回った

学校(小学校)での運動の現状

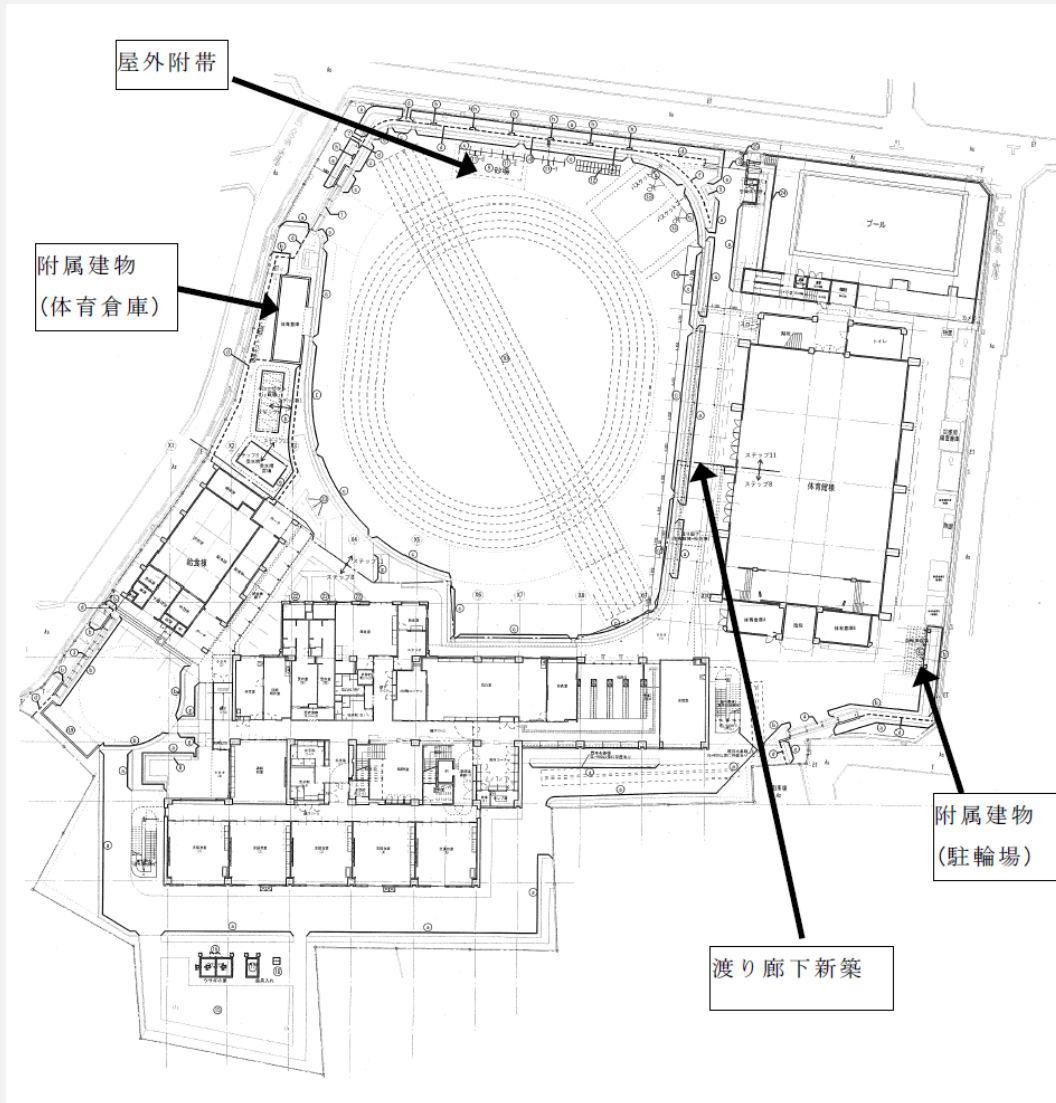
堺市立浜寺小学校の場合

児童数:459名(R6年) ピーク時:1893名(S47年)



学校(小学校)での運動の現状

堺市立浜寺小学校の場合



R8年度完成予定

グランド

トラック1週100m

50m直線 6レーン

学校(小学校)での運動の現状

堺市立浜寺小学校の場合



第2グラウンド(臨時)

徒歩 3~8分

通常の休み時間に
ここで運動することは
非常に厳しい...

地域における健康づくりのための取り組み

1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

- ・指導方法(教員に対してのレクチャー・研修開催)
- ・時間の有効利用(タイムスケジュール管理)
- ・道具の活用方法(既存・製作・**創作**)
- ・空間(場所)の有効活用

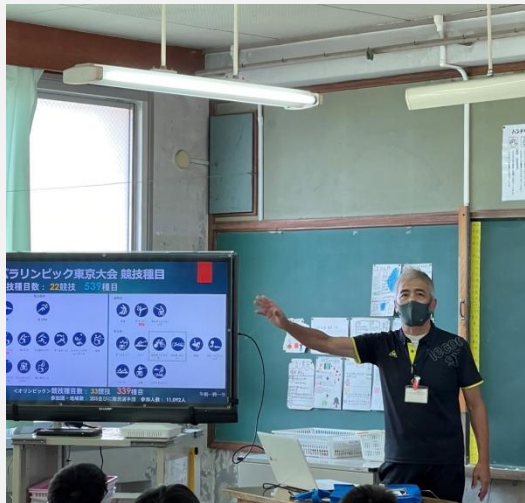
2. 地域でのスポーツイベントの開催

- ・運動能力向上のための・・・
- ・運動機会を増やすための・・・
- ・無理なく楽しく大人も交えての・・・
- ・**居場所づくりのための・・・**



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・指導方法(教員に対してのレクチャー・研修開催)



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・時間の有効利用(タイムスケジュール管理)

◇効率の良い準備体操(コーディネーショントレーニング)
とにかく“楽しんで”身体を動かす時間を確保する



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・時間の有効利用(タイムスケジュール管理)

◇2コマ続きの時間割(水泳・運動会シーズン)

日	曜	指導担当	1	2	3	4	5	6	予定
26	月								B3 始業式
27	火	4		6 教頭	6 鈴川				A4
28	水	3		5 田中	5 教頭				A4 給食開始 (5-2, 6-1, 6-2, 5-1, 5-3)
29	木	2		4 田中	4 教頭				登校指導 A4 NS(6-1, 5-1, 5-3, 6-2, 5-2)
30	金	1		3 鈴川	3 秋山				通常授業開始
31	土								
1	日								
2	月	6		2 水出・田中	2 水出・鈴川		3 秋山	3 榎本	
3	火	5		1 阪下・池島	1 阪下・鈴川		5 手塚	5 溝口	大阪880万人訓練
4	水	4		3 山野	3 濱				委員会 (5-2, 6-1, 6-2, 5-1, 5-3)
5	木	3		4 赤松	4 別所		6 鈴川	6 照喜納	NS(6-1, 5-1, 5-3, 6-2, 5-2)
6	金	2		音楽鑑賞・防災			5 辻本	5 國分	音楽鑑賞と防災の話 2・3時間目

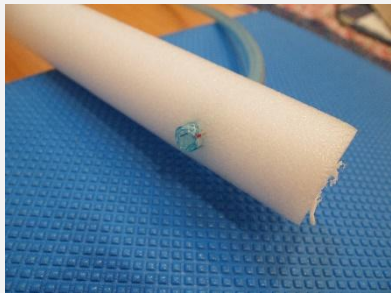
1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・時間の有効利用(タイムスケジュール管理)

◇備品の連続使用により無駄な時間カット

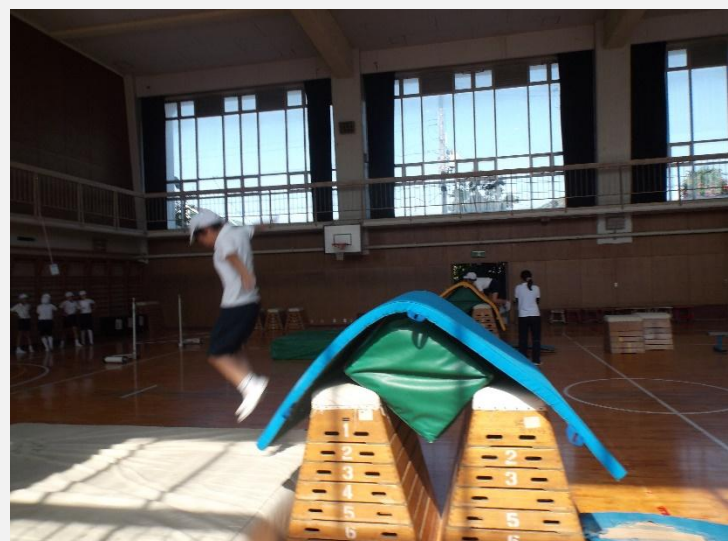


1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート) ・道具の活用方法(既存・製作・創作)



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・道具の活用方法(既存・製作・創作)



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート) ・道具の活用方法(既存・製作・創作)



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

・空間(場所)の有効活用



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

* 親子運動会 *



1. 学校保健体育授業への提案(監修・サポート)

リレーマラソン参加





体育専科教員が配置されており、担任と2人で授業をしている小学校とそれ以外の小学校の比較

小学校では、原則として学級担任が大半の教科を指導することから、体育の指導自体に困難さを感じていたり、子供の多様化に応じた指導ができなかったりといった課題が挙げられる。

そこで、体育の指導に関する専門的知識を備えた体育専科教員を配置している学校の調査結果や取組の事例に注目し、このような課題の解決につながる可能性について分析を行った。

体育専科教員について

教育委員会質問紙の「平成29年度に行った児童生徒の体力・運動能力に係る取組の具体的な内容」（質問1-2）に対し、小学校における体育専科教員の配置の拡大を図っていると回答した教育委員会の割合は、都道府県、指定都市、市区町村のいずれも低い値であった（表T1-1）。

体育専科教員は、体育の指導に関して専門的な知識を有している。しかし、児童の発達段階や、小学校における児童と学級担任との関わりの大きさなどを踏まえると、担任と2人で授業を行うことによって、より一層効果的な指導を行うことが可能になると考えられる。

【表T1-1】児童生徒の体力・運動能力に係る取組の具体的な内容として「小学校における体育専科教員の配置の拡大」を選んだ教育委員会の割合

区分	対象数	質問1-2	
		小学校体育専科教員の配置拡大	割合
都道府県	47	7	14.9%
指定都市	20	2	10.0%
市区町村	1,733	42	2.4%
全国	1,800	51	2.8%

2. 地域でのスポーツイベントの開催

- 運動能力向上のための • 「走り方教室」 2012年～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・運動能力向上のための・ 「走り方教室」 2012年～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

- 運動能力向上のための • 「走り方教室」 2012年～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・運動能力向上のための・ 「夏休み水泳教室」2014年*～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・運動能力向上のための・ 「夏休み水泳教室」2014年*～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・運動能力向上のための・ 「夏休み水泳教室」2014年*～



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・運動機会を増やすための・

・無理なく楽しく 大人も交えての・ **モルック体験会**



2. 地域でのスポーツイベントの開催

- ・運動機会を増やすための・・
- ・無理なく楽しく 大人も交えての・・ **ディスコン体験会**



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・居場所づくりのための・・ 子ども会とのタイアップ



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・居場所づくりのための・・ 子ども会とのタイアップ



2. 地域でのスポーツイベントの開催

・居場所づくりのための・・ 子ども会とのタイアップ



学校関係者各位

貴校ますます清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介しますためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。
それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。
貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平



自由に運動できる場所や機会が制限されがち
運動機会は学校まかせにせず **地域と協力**

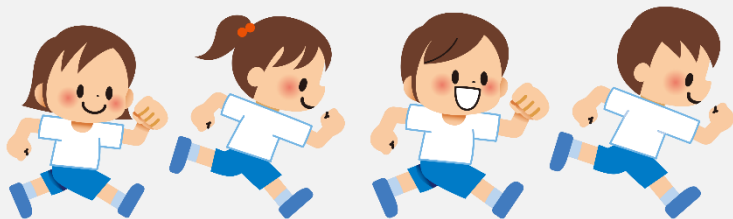
子どもたちに**運動の大切さ必要性**を理解してもらう
運動だけではなく食事・睡眠の重要性も・・・

そんな話しができるコミュニティー作りを大人が・・・

しかしながら子どもは大半が学校で過ごします

可能な限り「学校教育」へもアプローチしましょう

多くの学校に**体育専科の教員**を配置(提言)



我々、運動指導者が出来ることはたくさんあります